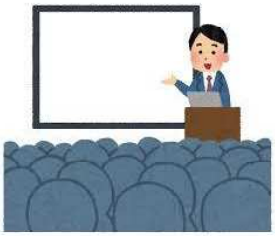
ともに励まん

２０１８，１１，２２（木）
北海道旭川永嶺高等学校２年次だより　第３３号（通巻 78 号）

コース別進路説明会



13日（火）、コース別の進路説明会が行われましたが、どうでしたか？やはり、**いよいよがんばらねば**、と気持ちが引き締まりましたか？

「求めよ、さらば与えられん。尋ねよ、さらば見出さん。叩けよ、さらば開かれん。」聖書の言葉です。

今後はすべて、受身で待ちの姿勢ではなく、**自ら情報を取りに行き、自らスケジューリングし、自ら点を取りに行く**という姿勢で。貪欲に、自分の将来を切り開いていく**覚悟**で。

40年前のアルバイト製品に出会う～京都・錦市場にて

前々々号で（この記事はずいぶん前に書いたのだけれど、何回も掲載延長となって今回に至る･･･いやあ、日々ネタがたまるんですわ）下らない旅日記を書き連ねてしまいましたが、その中で、「錦市場での発見」とは何か？　「芸道の上達とは何であるか？」との質問をいただきましたので、再び個人的なことで紙面を汚すことをお許し願いますね。

まず、京都錦市場というのは、京都市民の台所なんていう風にも言われ、新京極・寺町通りにも隣接しているので、修学旅行生もよく歩いています。ちょっとしたファストフード感覚でいろんな調理品を食べ歩きできるのも受けているようです。

さて、私はここで側板に「かずの子　1Kg入」と印刷された木箱を発見したのです。しかも、よ～く見ると妻板には「ヤマニ（屋号）留萌」と印刷されているではないか！　魚箱っていうのはね、側板（箱の長い方の側面）には商品名とキロ数、妻板（同じく短い方の側面）には、産地（加工場の所在地名）と、加工場の屋号が印刷されているものなのです。そのかずの子箱が、商品の陳列台の下に、台を斜めに見せるためのつっかい棒のように差し込んであったのです。いやあ、懐かしいのなんのって･････････な～んでか？

じつはね、ボクが中学生の頃。近所に魚箱の製函工場があって、いちばん小型の「かずの子１Kg入」の「箱打ち」のアルバイトをしていたからなんです。工場からリヤカーで、木箱の材料である、印刷済みの「側板」「妻板」「底板」それぞれ50箱分を結束して（縛って）ある資材を家まで運び、夜、玄関先なんかで専用の箱打ち台で、トカトントン、トカトントン、真鍮の釘を金槌で打って木の箱を作り続けたんです。できた木箱は50箱ずつくらいにまとめてすずらんテープでがっちり締めて結束し、また、リヤカーで工場まで運んで納品する。ボクは結構、早打ちできたんです。つまり、かせぎがよかった。引越し荷物の段ボールなんかをすずらんテープで瞬時にがっちり縛れるのも、この体験が生きているんです。

いまでは、かずの子の箱はきれいな紙の化粧箱製品ばかり。木の箱なんて、ごくまれに「身欠きにしん」なんかの箱を見かけるくらいしかなかったので、京都のこんなところで、40年も昔に作っていたかずの子箱に出会えるなんて本当にびっくりしました。

それにつけても、ちょっと昔まではなんでも「木箱」が多かった。大きな鮭も小さなかずのこも。リンゴ箱は机の代わりにしたし、コカコーラだって牛乳だって、瓶容器の木箱入りだった。今のようになんでもかんでも合成樹脂製ではなく、リユース、リサイクルできる材質のものが多かった。ところがプラ製品の台頭で、そのゴミが海洋に漂って魚類の体内にたまり、はては食物連鎖の頂点「シャチ」が最も廃プラをため込んで、近い将来、日本近海からシャチは半減し、生態系が崩れ･･･とまで言われています。なんだかなあ・・・。

いやあ、じつに個人的体験で申し訳ないのと、文字で説明するのは苦労したけれど、うまく伝わったかなあ？（かずの子の箱の写真はなくて、それに近い魚箱の写真でイメージをお願いします）

芸道とは？～菅公＝天神様に願ったこと

これまた個人的なことで申し訳ないんだけれども。

北野天満宮で祈願した「芸道の上達」の「芸道」とは何か。それは、「詩吟」なんです。いまから20年以上前、ひょんな事から、ある生徒のすすめで「詩吟」を習い始めることになったんです。詩吟というのは、漢詩や和歌、俳句、近代詩なんかの詩文に節や余韻を付けて朗詠するものです。昔の学生や文人なんかはよく折りに触れて、感興に応じて朗吟していたようです。漱石の作品（『吾輩は猫である』）にも出てくるし、作家・五木寛之も幼少期から慣れ親しんだそう。テツandトモのギターを弾いて伸びやかにハモリを重ねる青いジャージの方も、あののど声は詩吟で鍛えたのだそうです。

じつは、学生時代、友人が大学の「吟詠部」に入っていて、その発表会に招かれて、しびれる体験をしてました。いつか自分もやってみたいと、就職してから10年も心の底に温めていたんです。それが、ひょんな事から、部活の生徒に知られ、うちのばあちゃんがやってるからどう？というお誘いに乗ることになったんです。

爾来二十数年。転勤先でも道場を探し、週1回、水曜日の夜、稽古に通っています。所属する流派の師範、8段位まで進み、今回見学旅行に出発する2日前にも、9段位取得をめざす資格審査に臨んだところでした（つい先日、合格内定の報あり！）。

詩吟を習い始める動機としては、自分は職として「ものを教える」立場だけれども、「教わる」立場のことを忘れがちなんではないだろうか、自分も誰かに「ものを教わる」という経験をし続けることも必要なんじゃないか、と思ったからです。教わる立場を忘れずに教えるという仕事を続けていきたい、それが入門の動機です（前号に書いた「仕事の流儀」イマル版かな？）。無論、詩吟自体に興味があったのは前述の通りです。

これをいうと差し障りがあると困るのですが、教わる立場に身を置いてみると、ああ、こんな教え方してはいけないな、とか、こういう場合はこうした方がいいな、ということを学べるんです（密かに、そんな学び方をしていたなんてバレちゃうと破門されたりして･･･）。だから、どんなに忙しくても、お金がかかっても（毎月の月謝自体はほかの習い事に比べて安いと思います。教本など、元手もそんなにかからないし）、教師である間は、生徒でもあり続けようと思っています。

詩吟を続けてきて、得られたこともありました。まずは、声が出るようになったと思います。腹式呼吸ができ、声の瞬発力も高まったように思います。健康にもつながっていると思います。「アクセント」に敏感になったと思います。多くの詩文に出会え、その作者や時代背景などを勉強することもできました。

残念ながら、北海道の高校生にはなじみがないけれど、内地では、吟詠に剣舞を合わせた「吟詠剣詩舞」という高文連の専門部門もあります（全国大会も存在します）。

長くなりましたが、私の「芸道」は「吟詠道」でした。

後期中間直前。3連休を活かし、今度こそ納得のいく成績を残そう！

☆☆☆　来週の行事と時間割　☆☆☆

11月		行　事　等 ①②は、１校時２校時をあらわします		★時間割を確認しよう ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
２６	月		6 時間							
２７	火	後期中間考査(1)	4 時間							
２８	水	後期中間考査(2)	4 時間							
２９	木	後期中間考査(3)	4 時間							
３０	金	後期中間考査(4)	4 時間							

全力で。中 間！

（文責　伊丸岡）